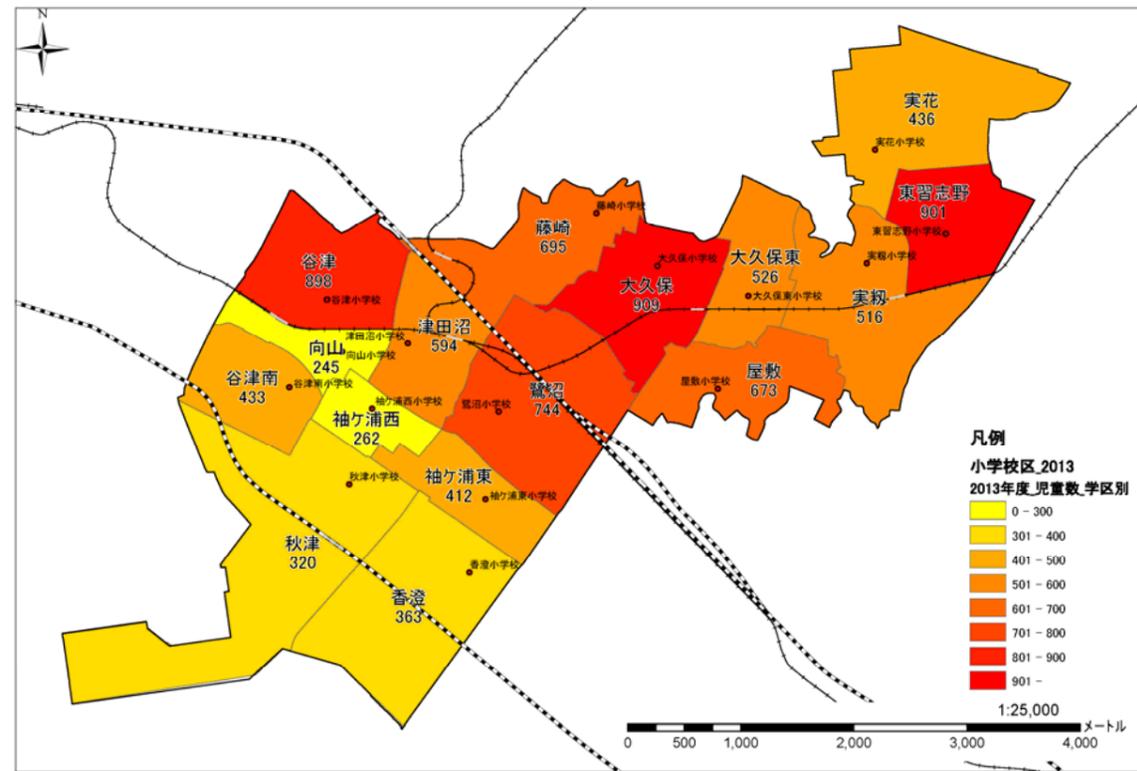
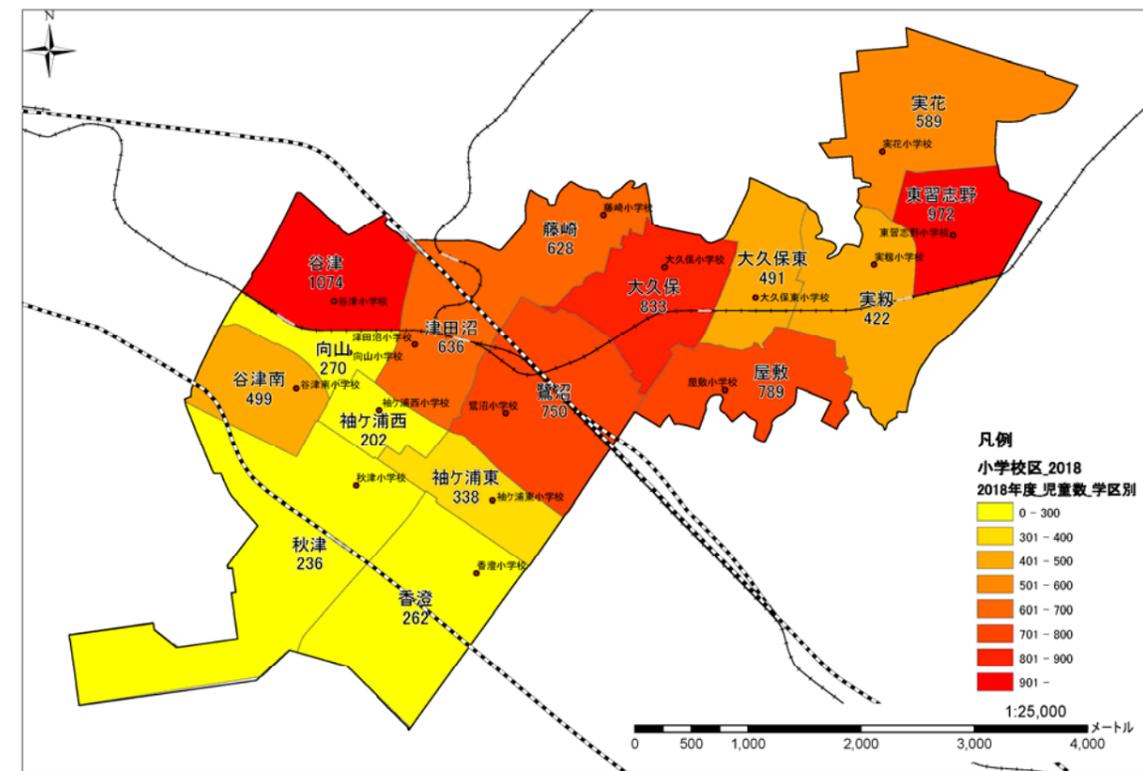


小学校別の児童数の推移(2013年→2023年)

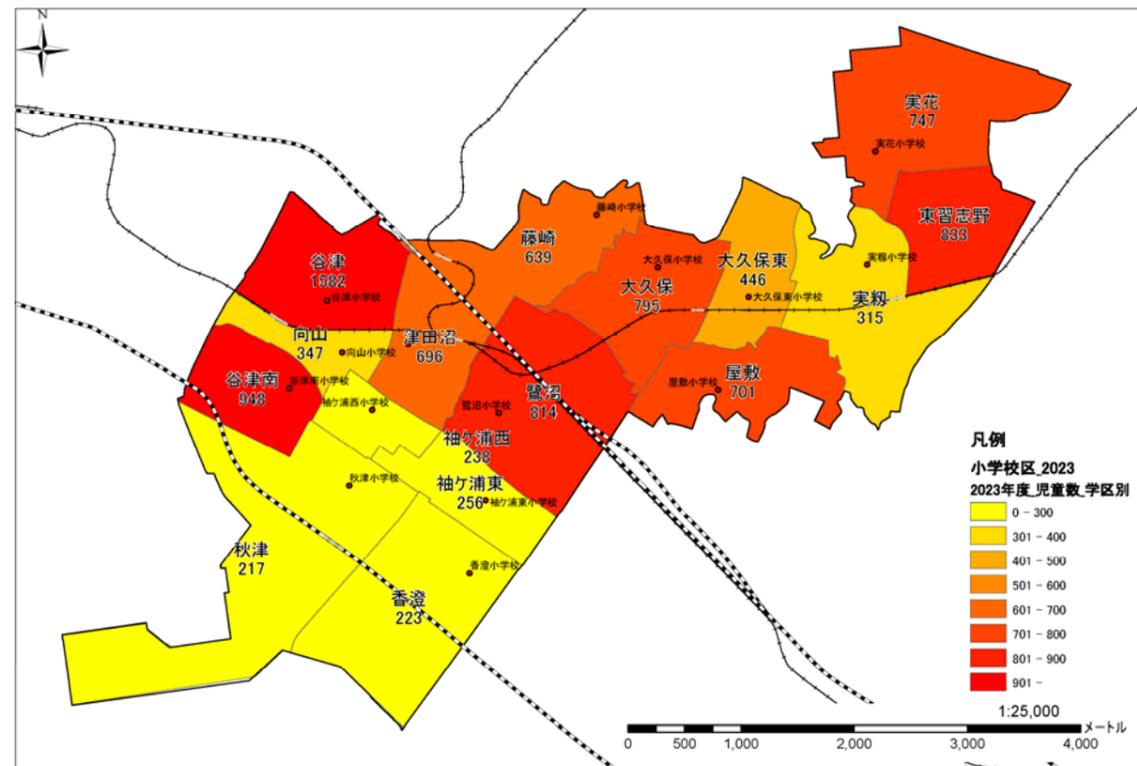
【2013年】



【2018年】



【2023年(推計値)】



■2023年児童数の推計方法(資料②-2参照)

- ・基本となるデータは、2017年5月の住民基本台帳の人数による。
(2017年5月時点の0歳～5歳児数が就学すると想定)
- ・開発行為による生徒数の増加については、奏の杜(谷津小、第一中)、ユトリシア(実花小、第四中)等の開発を考慮して推計を行っている。

■現況について(2018年)

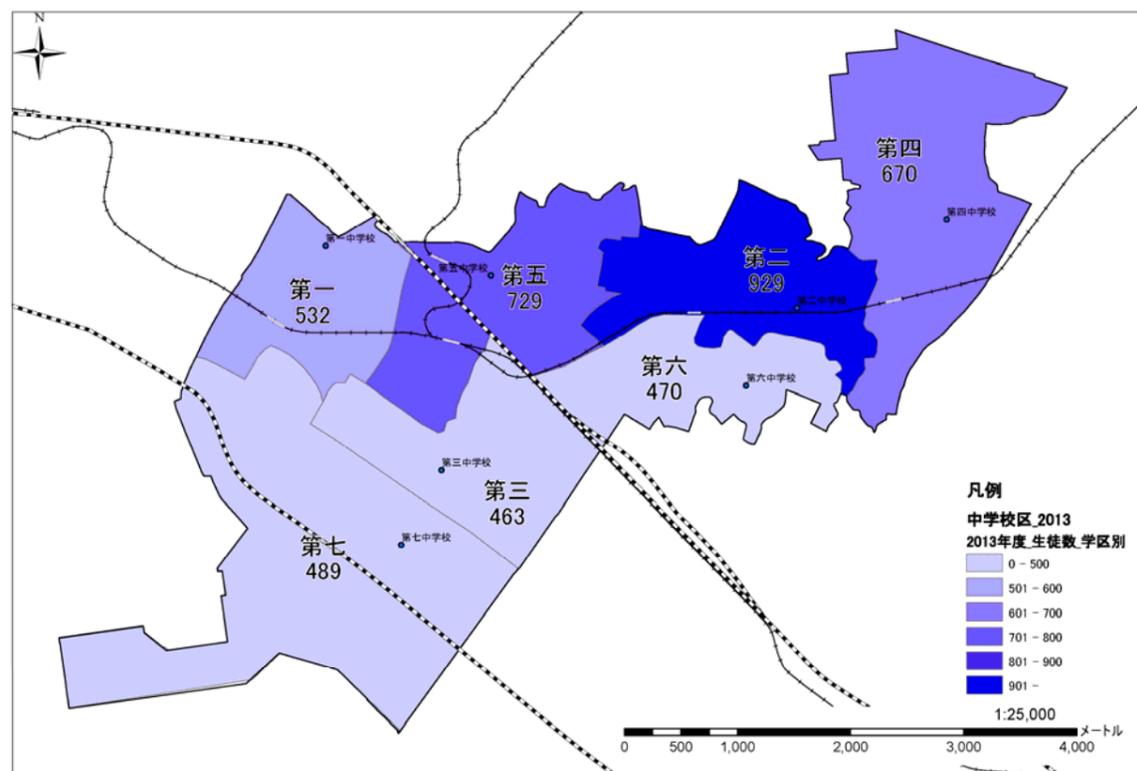
- ・国道14号線を境に、海側と陸側の児童数の差が明確になっている。
- ・JR津田沼駅に近い谷津の他、大久保、東習志野の児童数が出ている。

■推移について

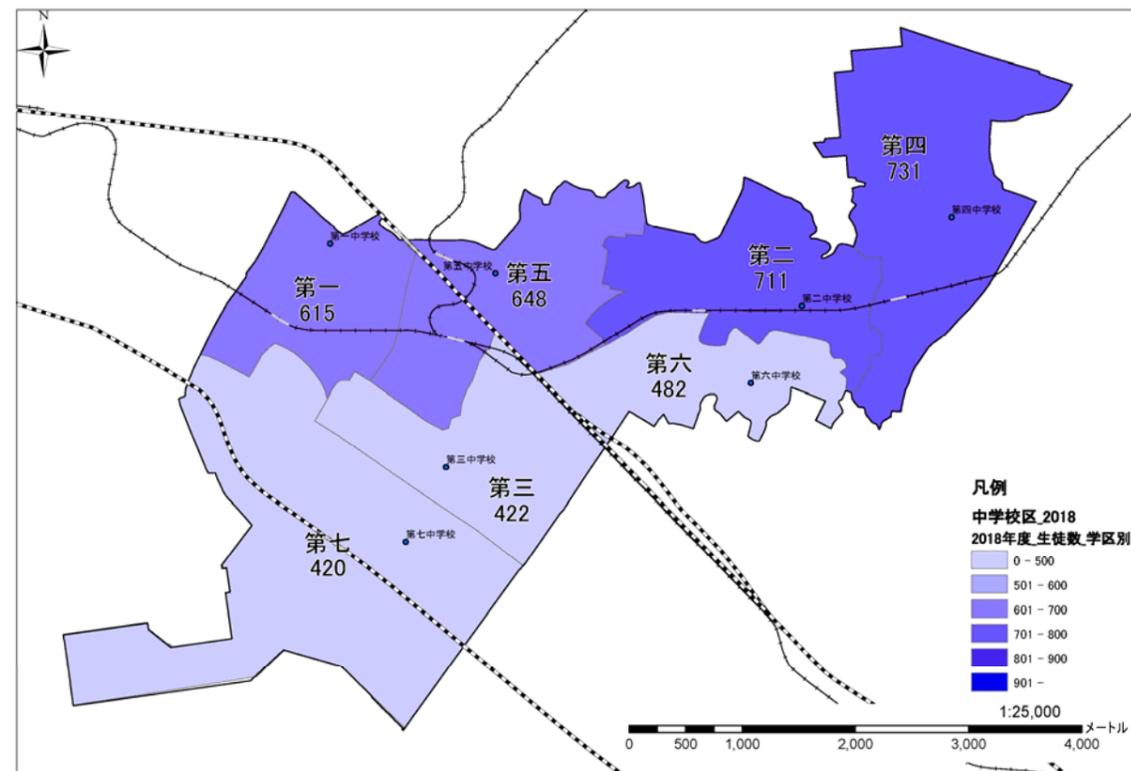
- ・谷津、谷津南、実花、鷺沼では増加傾向にあり、特に谷津、谷津南の増加が著しい。
- ・沿岸部の秋津、香澄、袖ヶ浦東では減少傾向にある。
- ・内陸側の鉄道駅に近い大久保東、実籾においても減少傾向にある。

中学校別の生徒数の推移(2013年→2023年)

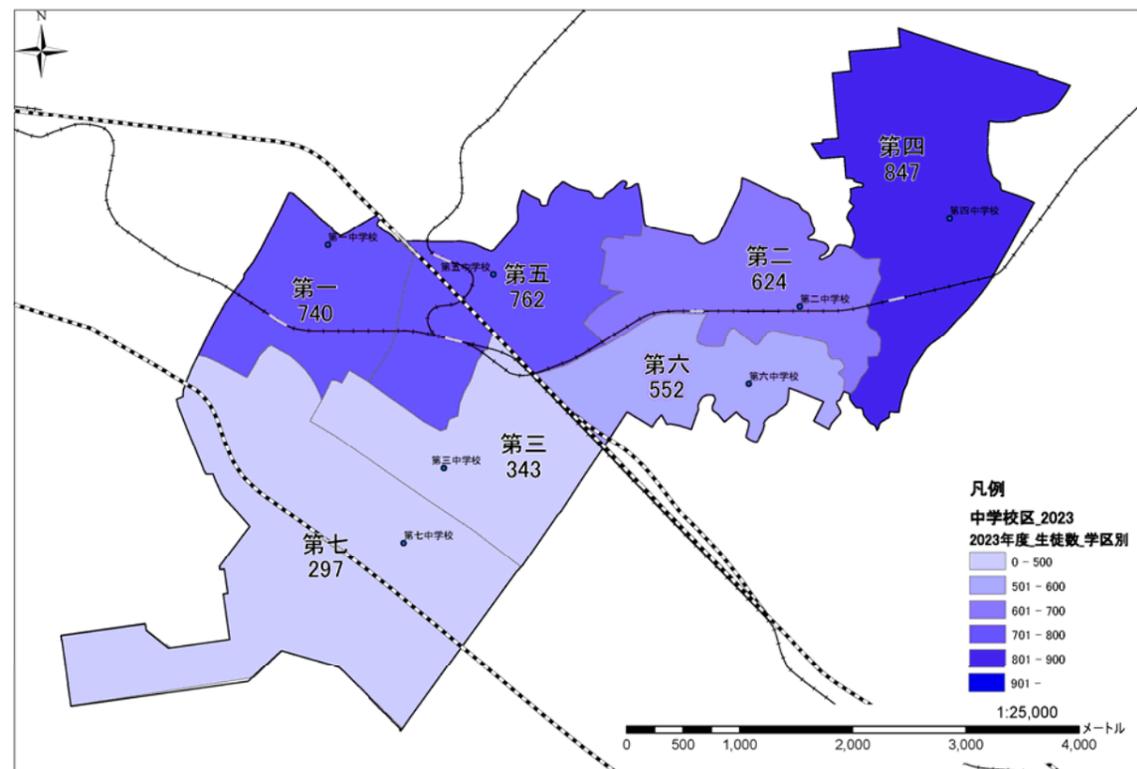
【2013年】



【2018年】



【2023年(推計値)】



■2023年生徒数の推計方法(資料②-2参照)

- ・基本となるデータは、2017年5月の住民基本台帳の人数による。
(2017年5月時点0歳～11歳児数が就学すると想定)
- ・開発行為による生徒数の増加については、奏の杜(谷津小、第一中)、ユトリシア(実花小、第四中)等の開発を考慮して推計を行っている。

■現況について(2018年)

- ・第三、第六、第七とその他の中学校で生徒数の差が明確になっている。
- ・第二、第四といった市域の東側で生徒数が多い状況である。

■生徒数の推移について

- ・第一、第四の増加が目立っている。
- ・2013年では全学区で最も生徒数の多かった第二中学校の減少が目立っている。
- ・沿岸部の第三、第七では減少傾向にある。
- ・第五、第六は2013年から2018年にかけて減少するものの、2023年推計値において増加する見込みである。